



2004年度 中間決算説明会資料



株式会社 サン・ジャパン

2004年11月19日

1 . 中間決算概況



1. 業績

連結

売上高 3,080百万円 (前期比 16.1 % ↑)

純利益 162百万円 (前期比 47.4 % ↑)

単体

売上高 2,549百万円 (前期比 20.4 % ↑)

純利益 99百万円 (前期比 29.1 % ↑)

単位:百万円

	2003年中間期		2004年中間期		前年比
	数 値	構 成 比	数 値	構 成 比	
売 上 高	2,653	100.0%	3,080	100.0%	116.1%
営 業 利 益	189	7.1%	268	8.7%	141.6%
経 常 利 益	184	6.9%	251	8.2%	136.3%
中間純利益	110	4.1%	162	5.3%	147.4%

2004年度中間期実績 前年比 【単体】



単位:百万円

	2003年中間期		2004年中間期		前年比
	数 値	構 成 比	数 値	構 成 比	
売 上 高	2,118	100.0%	2,549	100.0%	120.4%
営 業 利 益	161	7.7%	200	7.8%	123.6%
経 常 利 益	139	6.6%	176	6.9%	126.7%
中間純利益	77	3.6%	99	3.9%	129.1%

単位:百万円

	期初予想値		2004年中間期		達成率
	数	値	構成比	数	
売上高	3,060	100.0%	3,080	100.0%	100.7%
営業利益	226	7.4%	268	8.7%	118.6%
経常利益	222	7.3%	251	8.2%	113.3%
中間純利益	129	4.2%	162	5.3%	125.8%

単位:百万円

	期初予想値		2003年中間期		達成率
	数値	構成比	数値	構成比	
売上高	2,480	100.0%	2,549	100.0%	102.8%
営業利益	193	7.8%	200	7.8%	103.6%
経常利益	178	7.2%	176	6.9%	99.4%
中間純利益	96	3.9%	99	3.9%	104.0%

バランスシート概要 【連結】



単位:百万円

		2003年中間期		2004年中間期		増減		
		数	値	構成比	数		値	構成比
資産の部	流動資産	3,219		87.9%	3,969		77.8%	749
	固定資産	436		11.9%	1,131		22.1%	695
	繰延資産	6		0.2%	4		0.1%	2
	資産合計	3,662		100.0%	5,105		100.0%	1,442
負債の部	流動負債	544		14.9%	1,486		29.1%	942
	固定負債	164		4.5%	178		3.5%	14
	負債合計	708		19.4%	1,665		32.6%	956
少数株主持分		228		6.2%	258		5.1%	30
資本の部合計		2,725		74.4%	3,181		62.3%	455
総資産		3,662		100.0%	5,105		100.0%	1,442

バランスシート概要 【単体】



単位:百万円

	2003年中間期		2004年中間期		増減	
	数値	構成比	数値	構成比		
資産の部	流動資産	2,605	78.4%	3,280	69.7%	675
	固定資産	712	21.4%	1,424	30.2%	712
	繰延資産	6	0.2%	4	0.1%	2
	資産合計	3,324	100.0%	4,709	100.0%	1,385
負債の部	流動負債	498	15.0%	1,509	32.0%	1,011
	固定負債	164	4.9%	178	3.8%	14
	負債合計	662	19.9%	1,688	35.8%	1,025
資本の部合計	2,662	80.1%	3,021	64.2%	359	
総資産	3,324	100.0%	4,709	100.0%	1,385	

単位：百万円

	2003年中間期		2004年中間期		前年比
	数 値	構 成 比	数 値	構 成 比	
給 与 手 当	110	27.1%	120	27.3%	109.9%
研 究 開 発 費	21	5.3%	3	0.8%	16.8%
旅 費 交 通 費	23	5.7%	25	5.8%	109.1%
そ の 他	251	61.9%	292	66.1%	116.3%
販管費合計	406	100.0%	443	100.0%	109.1%

(数値は連結)

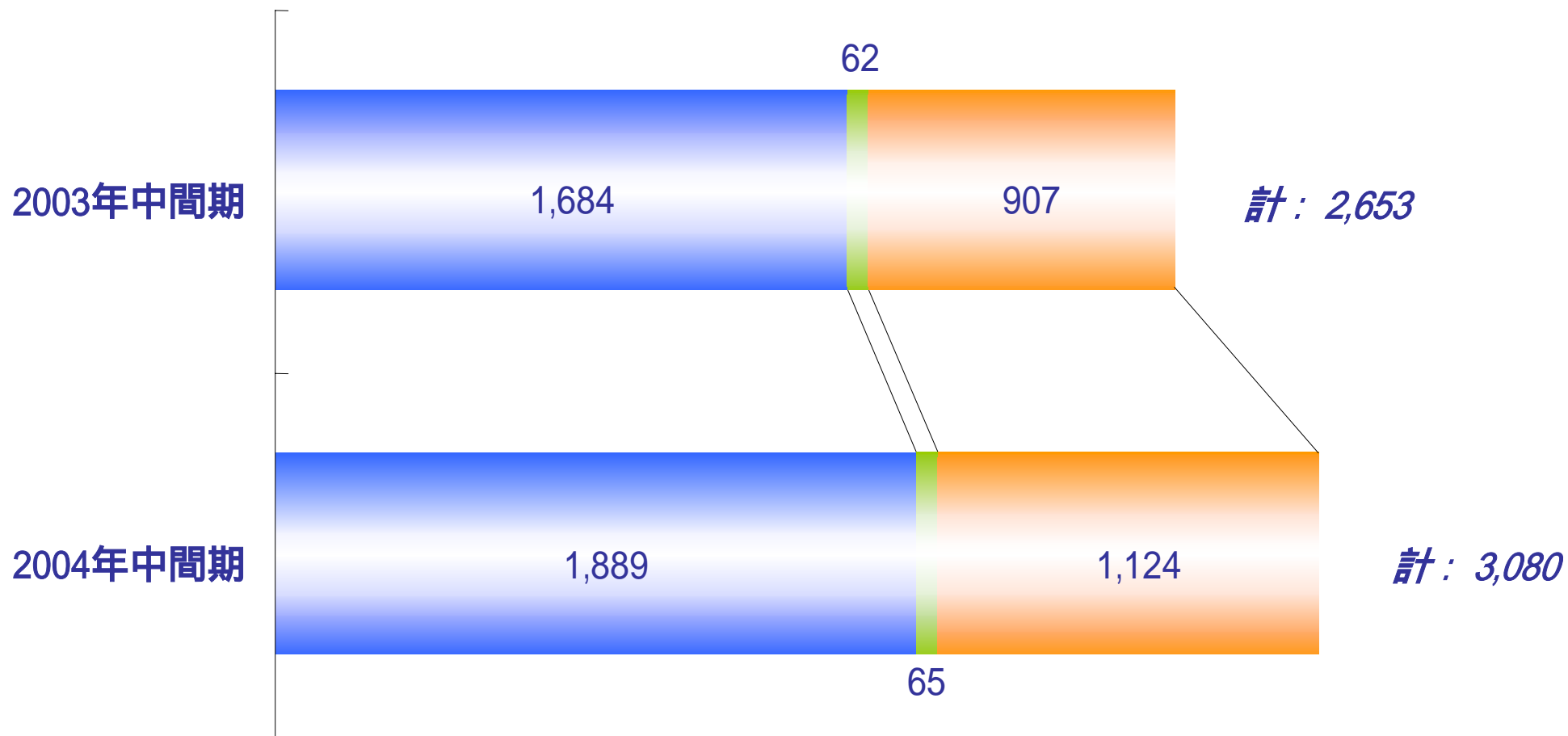
単位:百万円

	2003年中間期	2004年中間期	増 減
営業活動による キャッシュ・フロー	183	330	513
投資活動による キャッシュ・フロー	75	538	614
財務活動による キャッシュ・フロー	11	488	476
現金及び現金同等物 中間期末残高	1,696	1,467	228

事業区分別売上高推移

■ システム開発事業 ■ ソフトウェア製品事業 ■ 情報関連商品事業

単位:百万円



(数値は連結)

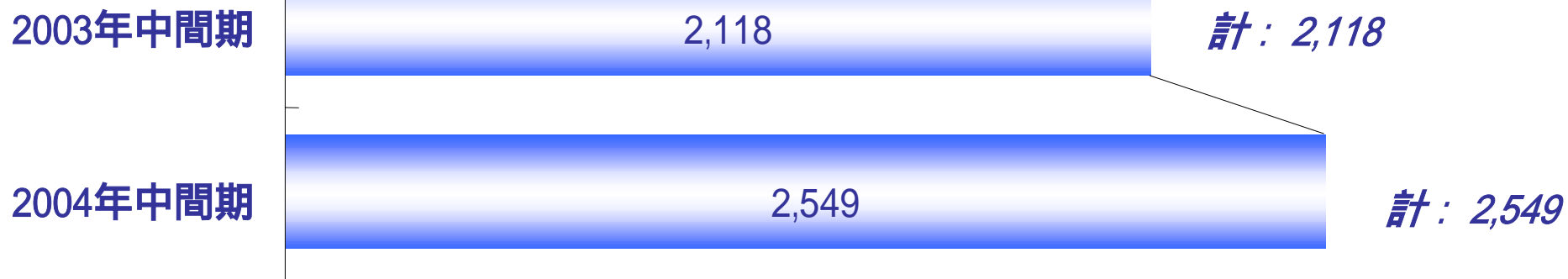
所在地別売上高推移



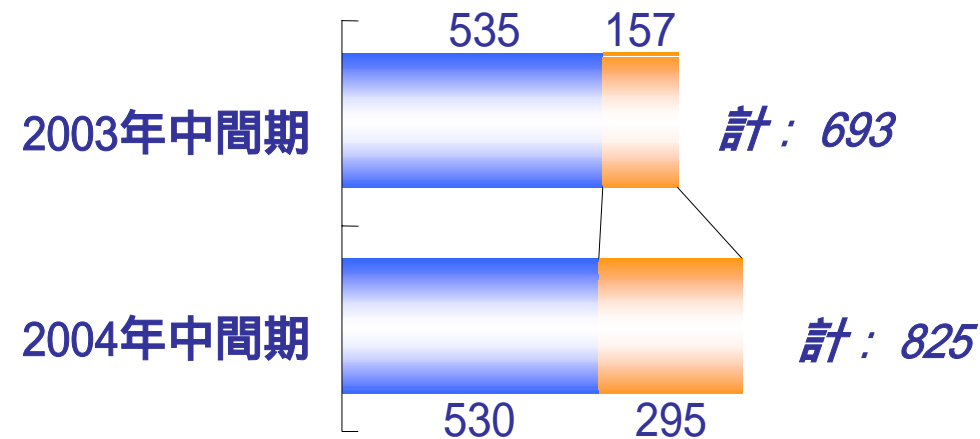
数値は連結消去前のもの

■ 外部顧客に対する売上高 ■ 内部顧客に対する売上高又は振替高 単位:百万円

【日本】



【中国】



数値は連結消去前のもの

単位:百万円

＝ 営業利益

【日本】

2003年中間期

189

2004年中間期

231

【中国】

2003年中間期

35

2004年中間期

89

2 . 企業活動概要

- 1) TCCとの経営統合
 - 共通営業戦略の策定
 - 人的リソースの融合
 - バックオフィス部門のシステム化検討と効率化の検討
- 2) 重要顧客向け営業の強化
- 3) 中国におけるビッグプロジェクトの受注
- 4) 重点分野への取組の強化
 - 保険
 - 企業間取引(EDIなど)
- 5) 優秀な人材の取り込みと社内スタッフ向け教育の強化
- 6) 開発プロセスの最適化と品質の向上
 - CMM3の取得 等
- 7) ビジネスアライアンスの強化

- 1) TCC、アイビートとの三社経営統合による来期に向けての体制作り
 - ホールディング化
 - 中国子会社各社の一本化
- 2) その他 上期各種取組みの深化・継続

3 . 中期経営計画について

1. 計画のポイント

緊密な経済関係にある日本と中国の双方において事業展開を行い、社会並びに顧客の様々な需要に応え、その相乗効果をもって業容拡大並びに一層の収益をあげる

日本市場における事業展開

- 独自の分散開発体制の強化によるアドバンテージの最大化
- ビジネスリソースの質・量の強化を目的とした積極的な投資の実施



「特色あるSI企業」として、迅速に「中堅クラスの規模」(売上数百億円)へと成長

中国市場における事業展開

- SJグループのポテンシャルを活かし、迅速に事業基盤を整備
- 高付加価値の先端分野を開拓(次世代携帯電話向け設計・開発、BtoCサービス等)



日本向け開発ノウハウを活用し、「中国トップクラスのITサービス企業」へと成長

2. 実施重点施策

1) グループ経営

- 日本、中国両地域でのホールディング会社設立によるグループ統治の強化
- 中国ホールディング会社の株式上場
- グループ内各社重複機能を統合することによる効率化と収益性向上
- 引き続き補完関係にある会社との資本提携の模索

2) SIサービスにおける得意分野へのフォーカス

- 通信、金融、電子商取引等分野への資源の集約
- 日本と中国の双方で、同じ分野への事業展開を協調しながら推進することによる相乗効果と収益性向上

3) ビジネスアライアンスの積極的推進

- 企業間取引(EDI等)、セキュリティ、流通等の安定的な収益分野におけるビジネスアライアンスの推進

2. 実施重点施策

4) 中国市場の本格開拓

- 従来型SIサービスの迅速な規模拡大
- 有力日本企業との提携による中国市場開拓の加速
- 有力中国企業との提携による一般コンシューマ向け電子商取引サービス、携帯ソフトウェアの設計・開発、医療先端分野の開拓

5) サービスの質的向上

- スタッフのプロフェッショナルとしてのレベルアップ

6) コストの最適化

- 従来の強みである分散開発体制の量的・質的強化
- 他社が追従できないコスト競争力の構築

中国市場

- 成長中の巨大マーケット
- 日本で培った製品・技術・品質を中国に活用
- 大学など現地パートナーとの信頼関係とその活用
- 優秀なIT技術者の宝庫

日本市場

- 競争熾烈ながら巨大なマーケット
- 高技術、コストパフォーマンスに優れた企業への集中
- 顧客のミッションクリティカルな要求に応える必要性

中国国内の成長分野

- テレコム
- 自動車(アフターマーケット)
- 電力
- 政府プロジェクト
- 次世代携帯
- コンシューマ向け電子取引 他

日本大手SIer

- システム開発サービス
(スケールメリット重視)

中国進出日系企業

- SIサービス



エンドユーザ

- SIサービス

日本大手SIer

- システム開発サービス
(ハイエンドシステムの提供)

プラスの相乗効果

3 . 数値目標

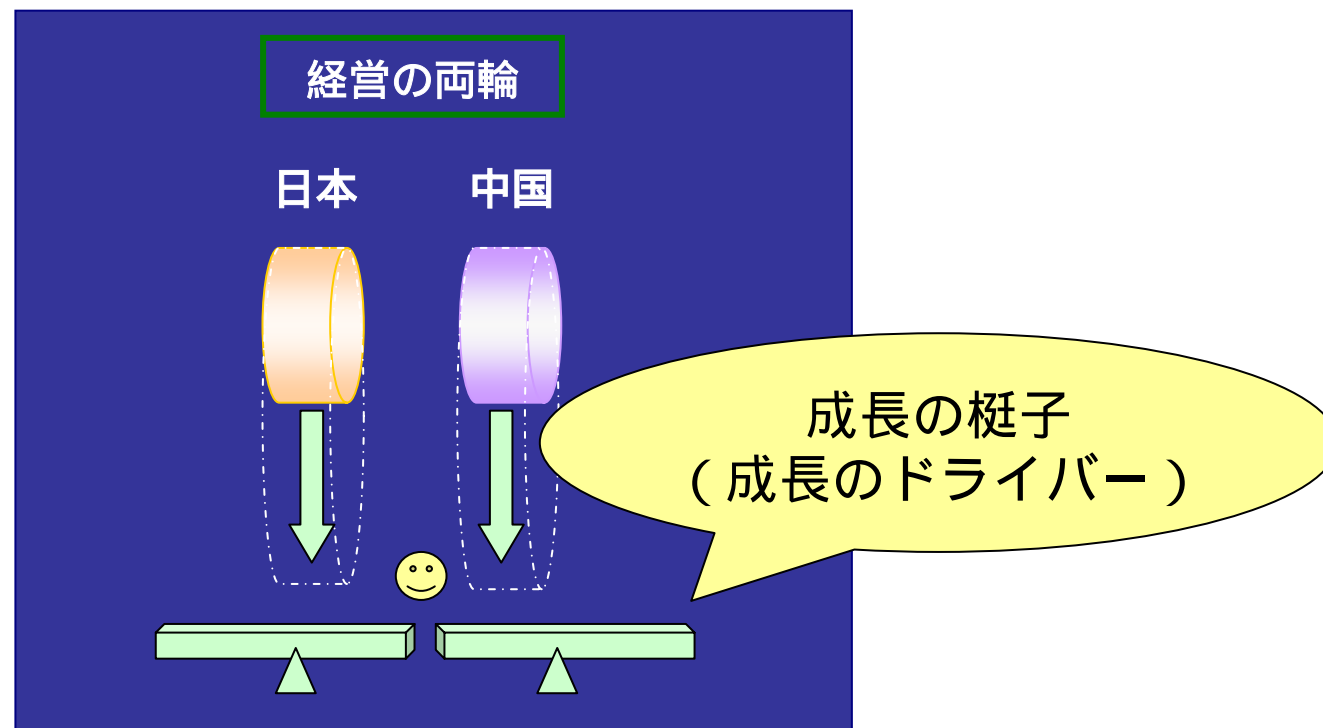
【三ヶ年中期経営計画最終年度(2008年3月期)の連結業績数値目標】

連 結 売 上 高	400 億円
(日本市場売上高)	約 250 億円
(中国市場売上高)	約 150 億円
経 常 利 益	48 億円

4 . 当社の成長ドライバー について



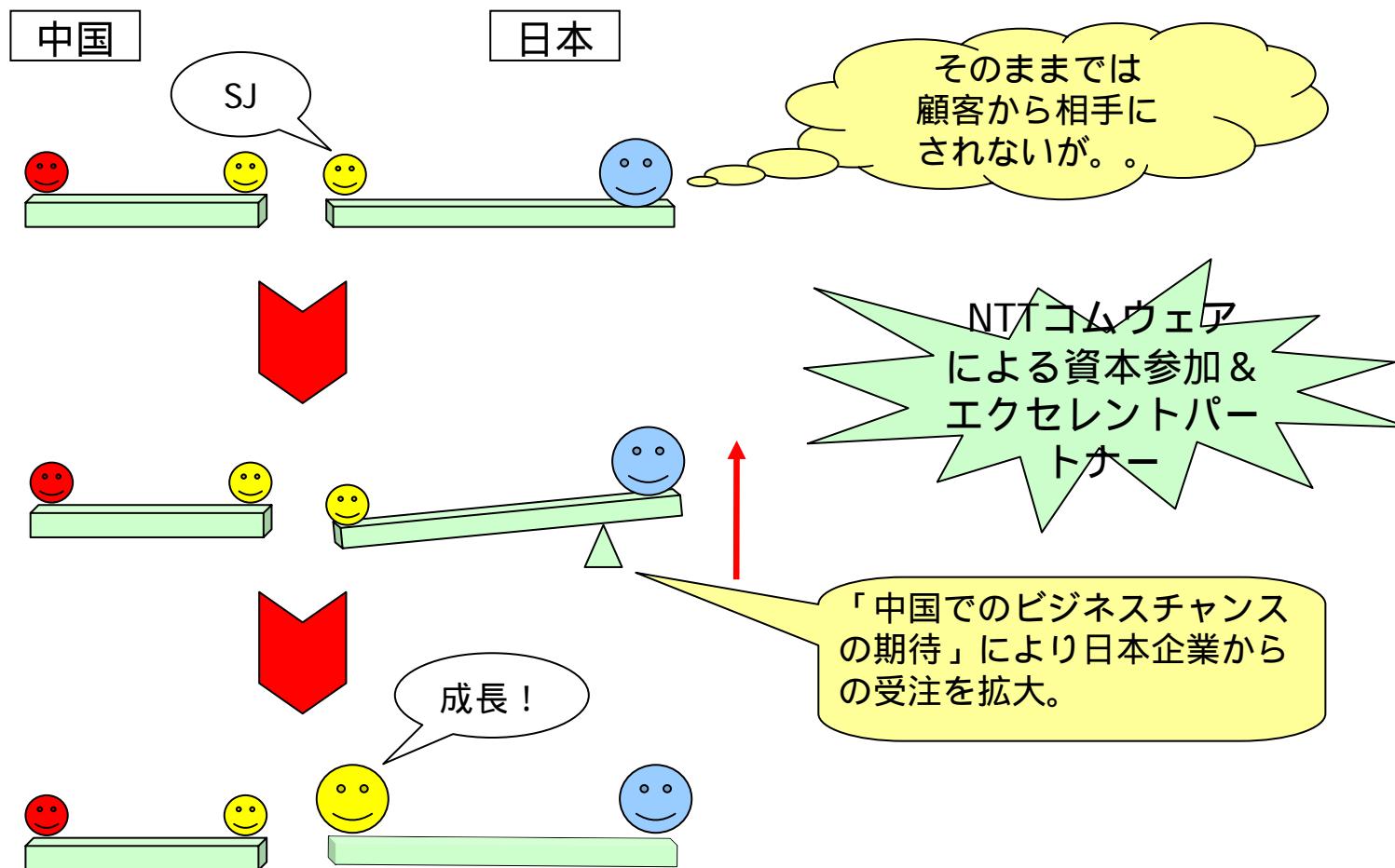
1. サン・ジャパンのビジネスモデル



- 前回の決算説明会資料のように、日本と中国の経営の両輪を持っていることは、サンジャパンの特徴である。
- サン・ジャパンは、日本と中国それぞれの成長が相互に好影響をもたらす「成長の梃子」を持っている点が最大の特徴である。

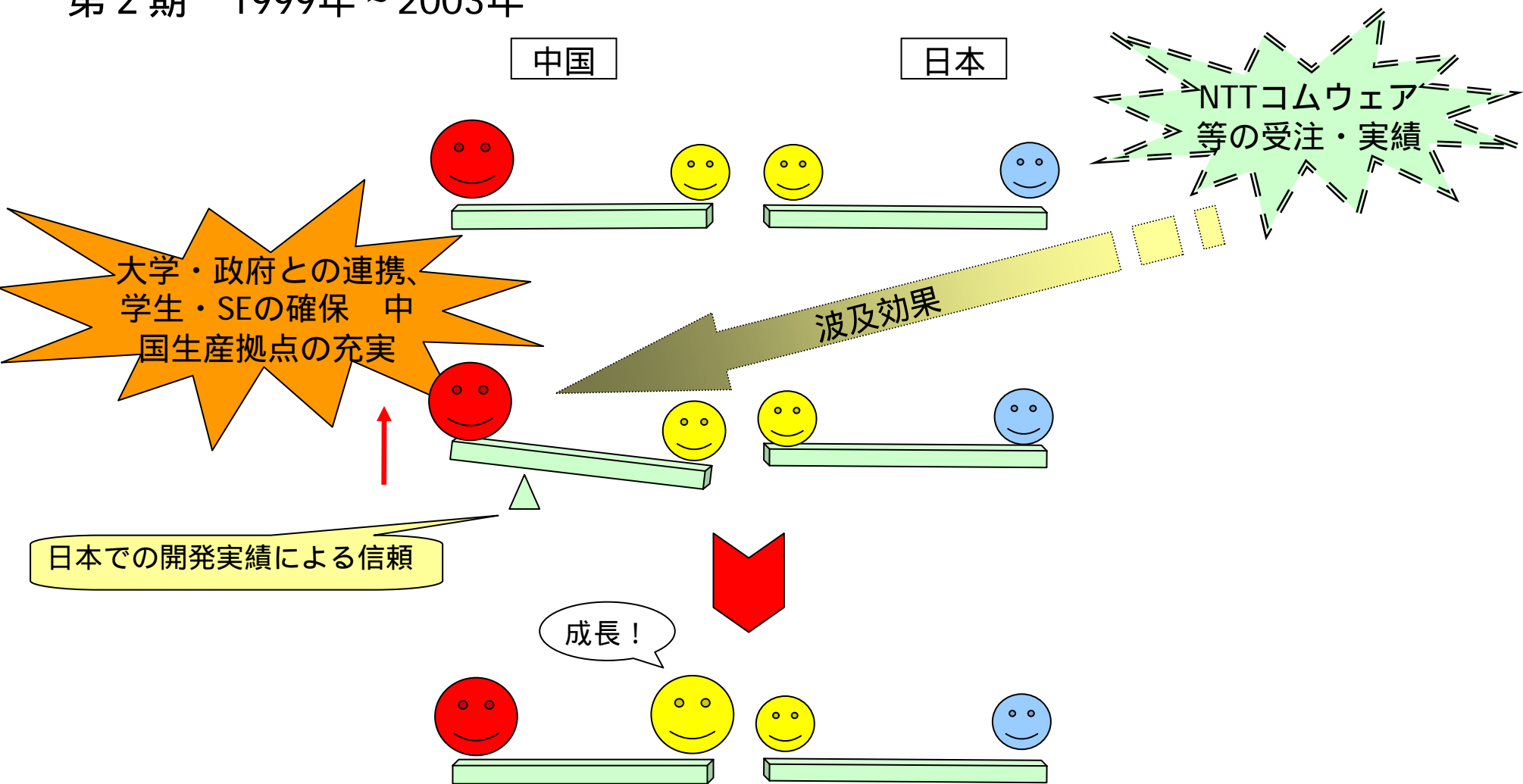
2. サン・ジャパンの歴史と「成長の梃子」(1)

第1期 設立～1999年



2. サン・ジャパンの歴史と「成長の梃子」(2)

第2期 1999年～2003年



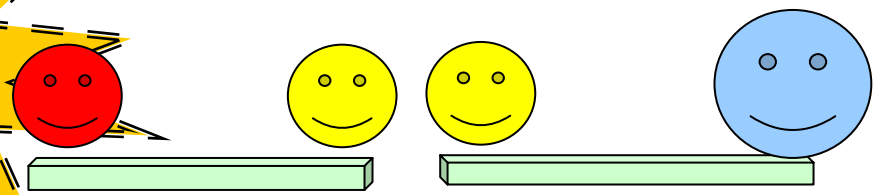
2. サン・ジャパンの歴史と「成長の梃子」(3)

第3期 2003年~2004年

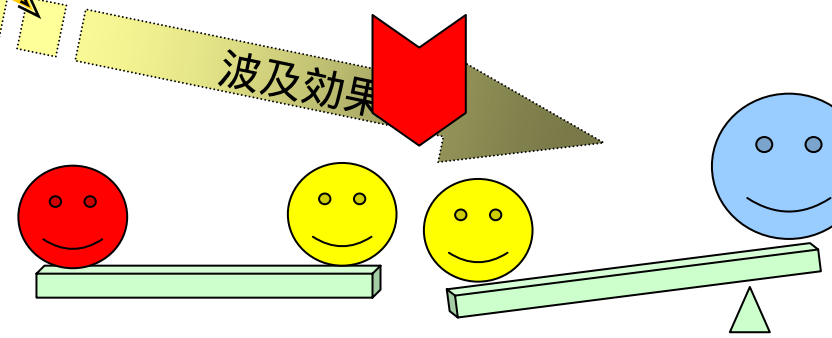
中国

日本

大学・政府との連携、
学生・SEの確保 中
国生産拠点の充実



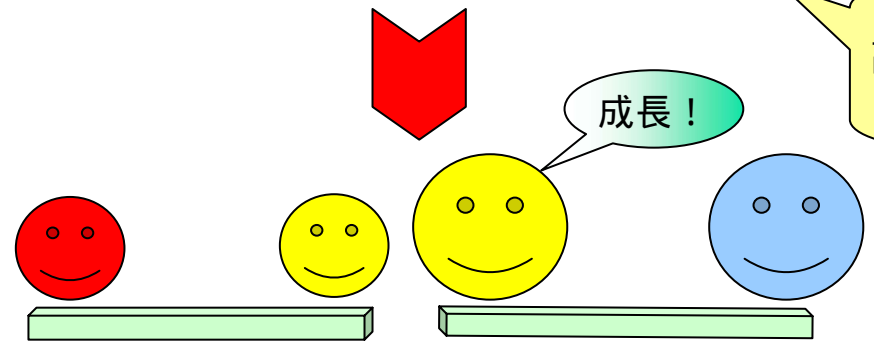
波及効果



株式公開の実現
TCC, IBETとの統
合

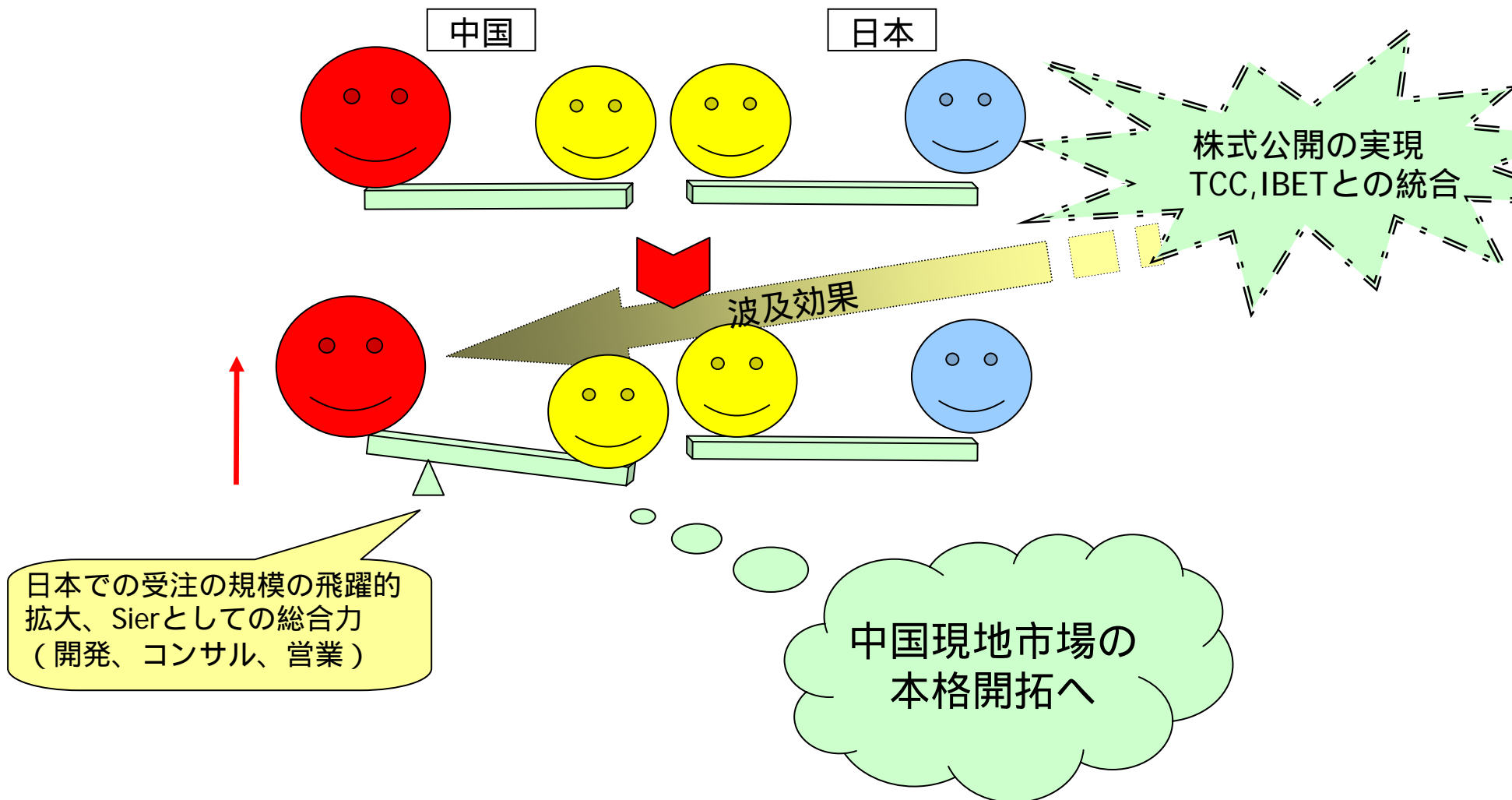
中国開発拠点ノウハウの魅力、
高品質とコスト競争力の両立
に対する評価

成長!

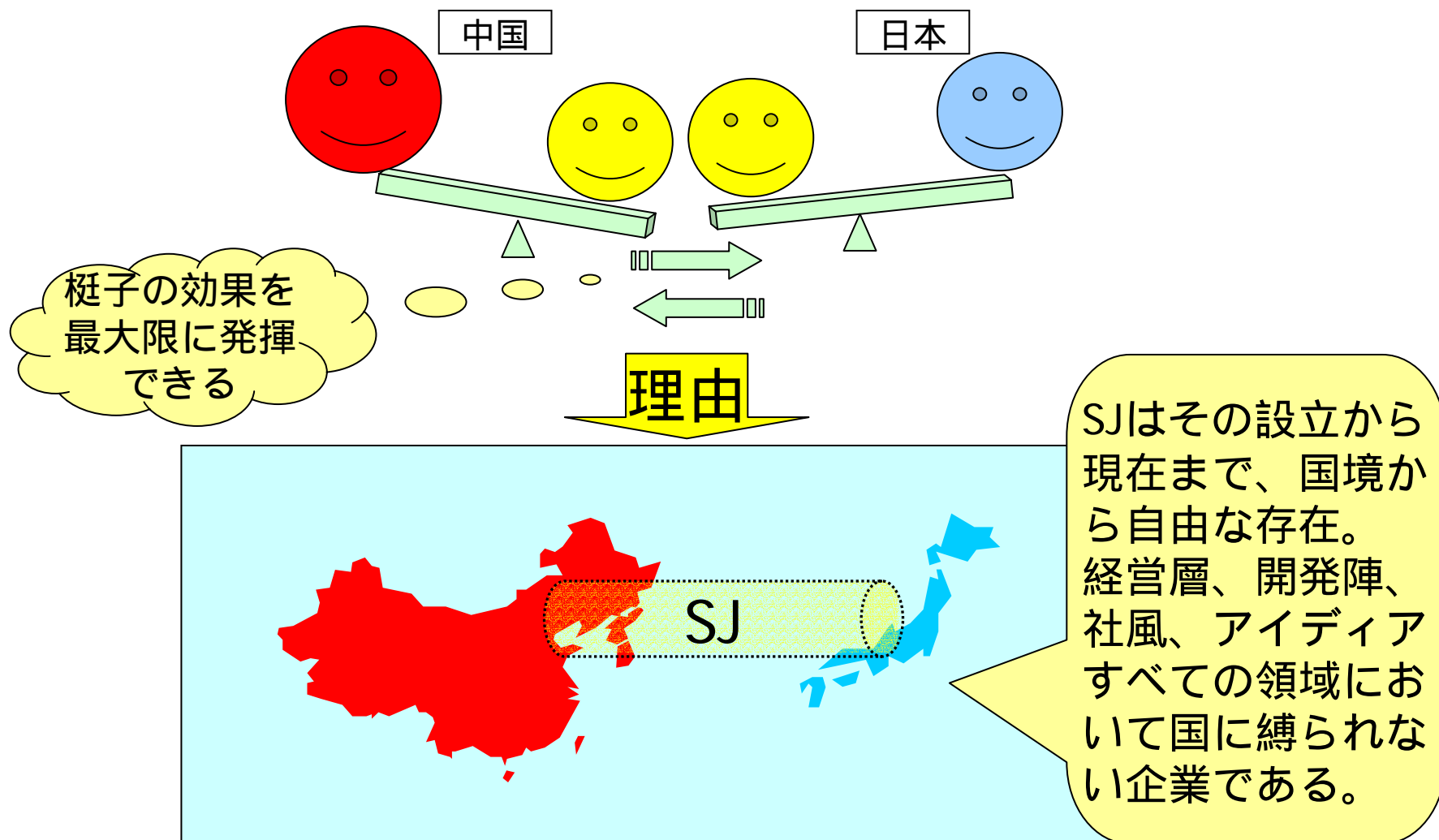


2. サン・ジャパンの歴史と「成長の梃子」(4)

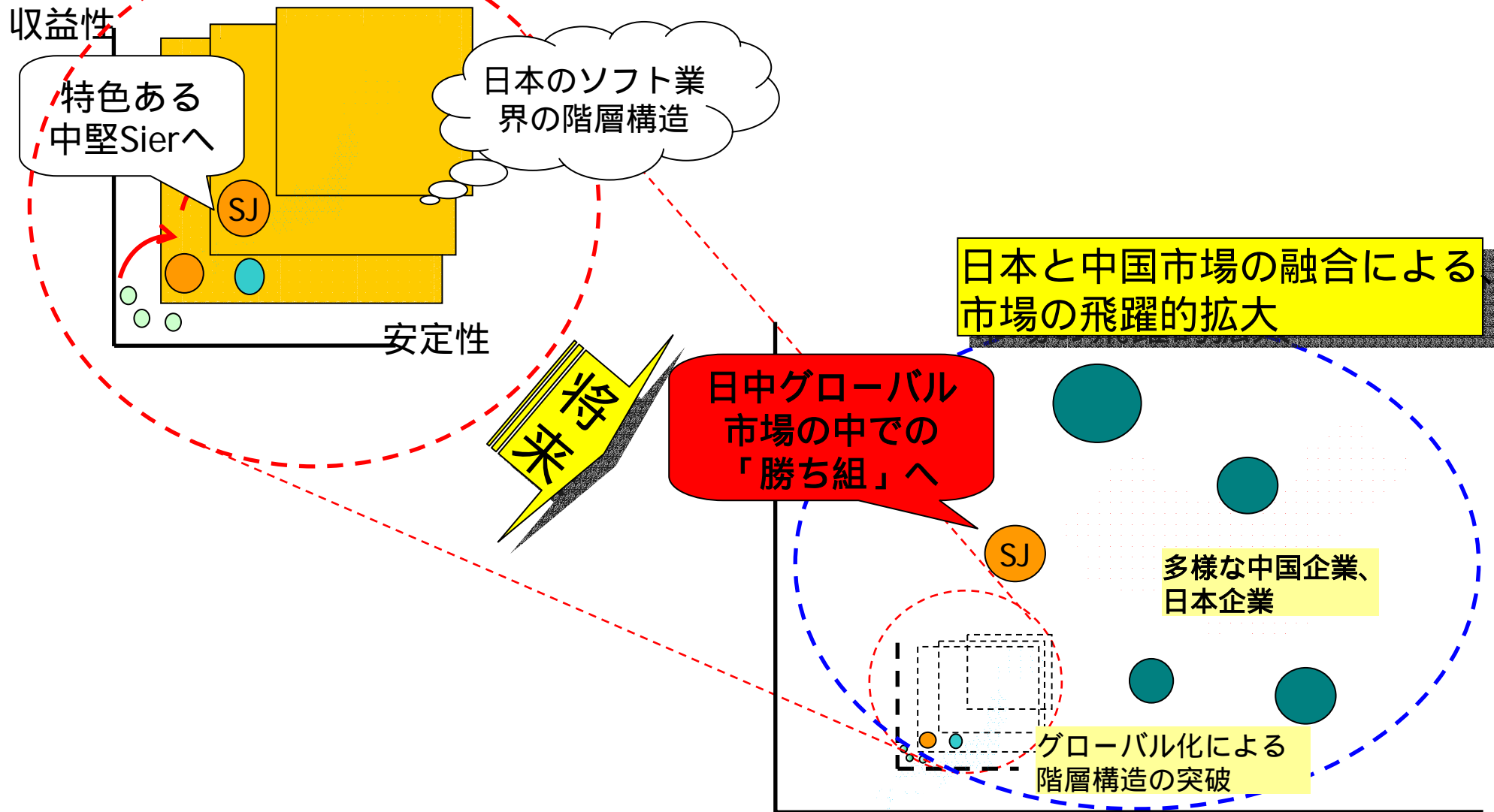
第4期 2004年～



3. 「成長の梃子」がなぜ可能か



4 . サン・ジャパンがめざすビジネスポジション

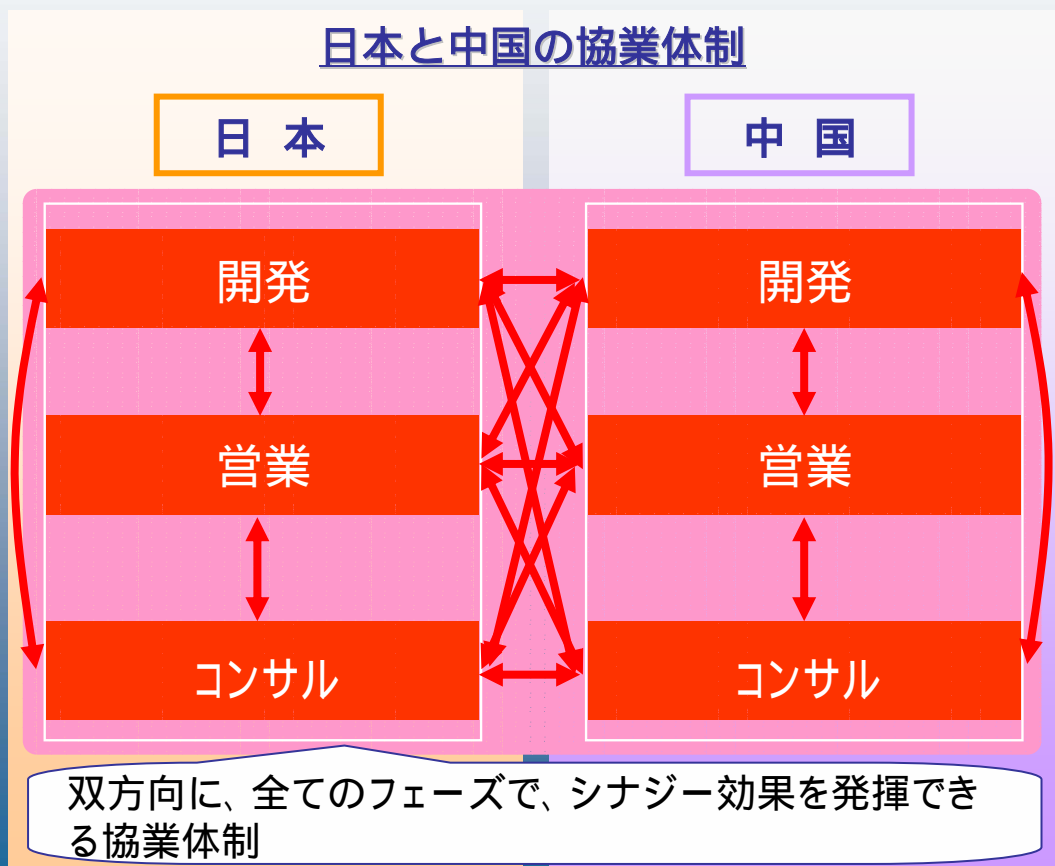


5 . 株式会社アイビートとの 経営統合について

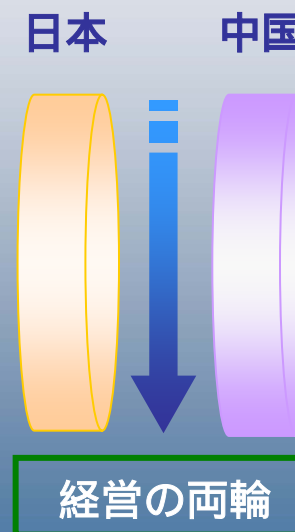


1. 将来のグループ像

日中両マーケットに対応できる双方向の協業体制



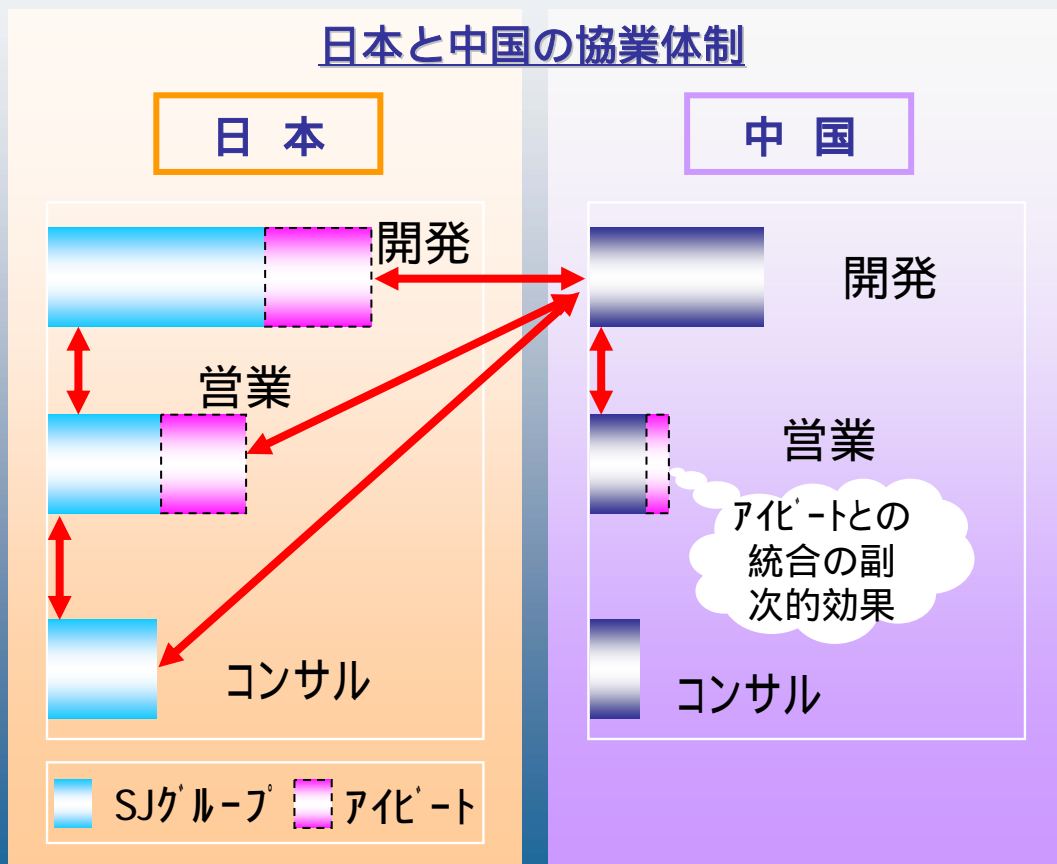
日中市場でのバランスの取れた成長



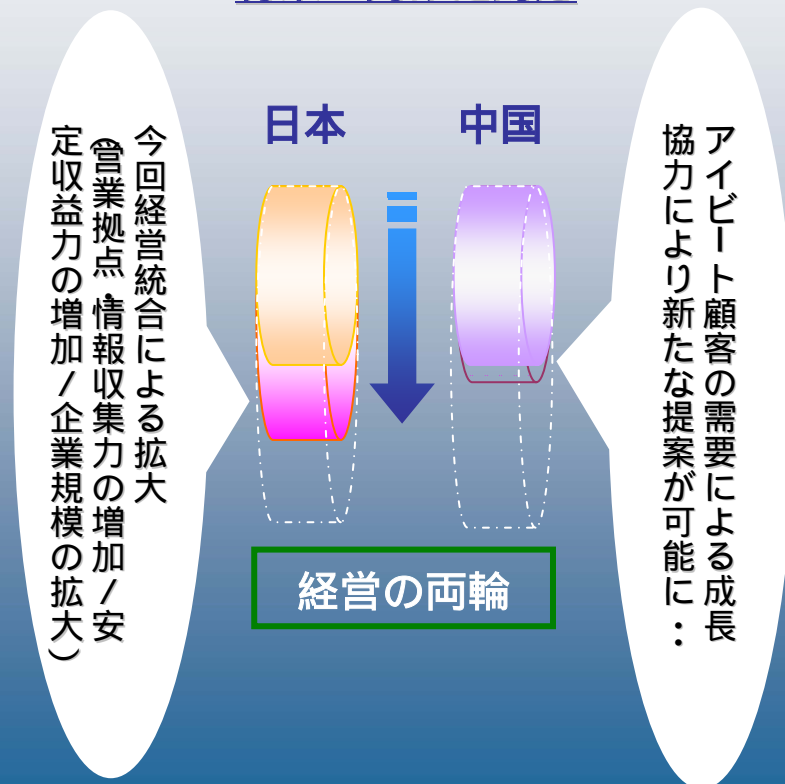
高い技術力をベースとし、上流工程への展開を加速。日中両国においてユニークな企業としての事業基盤を確立。相互にシナジー効果を生む。

2. 今回の経営統合

中国における総合的な展開を見据えた国内事業基盤の整備



将来へ向けた対応



スキーム



株式交換による(株)アイビートとの経営統合

スケジュール

株式交換契約書締結	2004年12月1日(予定)
株主総会(両社)	2005年2月15日(予定)
株式交換期日	2005年4月1日(予定)

1. SJとアイビートの概要と特色

	SJ (2004.03.31現在)	アイビート (2004.03.31現在)
主な事業内容	システム開発事業を中心とした 「情報サービス業」	ソフトウェア開発
設立年月日	平成元年7月14日	平成14年11月1日
資本金	968百万円	300百万円
総資産	4,457百万円	4,264百万円
従業員数	592名	536名
主要取引先	NTTコムウェア株式会社 株式会社電通国際情報サービス ソフトバンク・テクノロジー株式会社	株式会社NTTデータ 富士通株式会社 株式会社デンソー及び同社グループ
特色	技術力の高さに定評 他社に先駆け、中国子会社との「分散 開発体制」を実現し「高品質・短納期」 な開発サービスを提供 規模が小さく、大型案件受注に制約 コンサル・営業に強い人材が不足	営業拠点を中部圏、関西圏においても 展開 大手優良顧客とのパイプが太い ハイエンドな開発を行う人材が不足 中国での事業展開は未開拓

2. 統合によるシナジー効果について

日本市場

- SJと顧客が重複しないため顧客情報収集力が向上
- 営業拠点に中部圏、関西圏が追加され、全国エリアへ
- 大手顧客数が増加し、当社グループの収益が安定化
- 500名強の社員が加わり、大型案件への対応力が向上



情報収集力向上



営業の全国エリア化



収益安定化



大型案件の獲得

中国市場

- ア化粧品顧客の中国に進出時における協業等、顧客増加
- 中国での開発等、新提案によるア化粧品顧客の需要開拓



顧客の増加

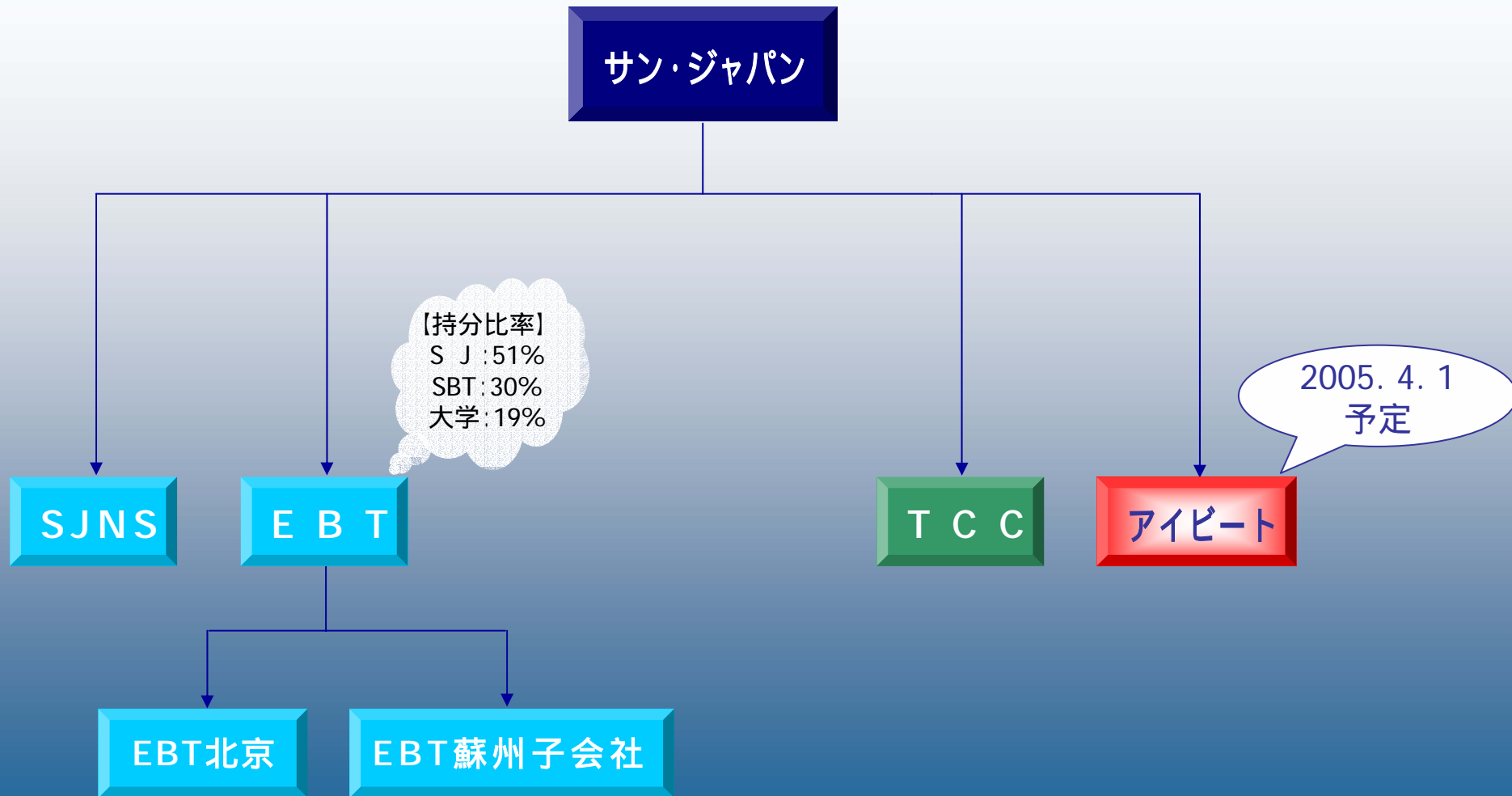


新提案による需要増

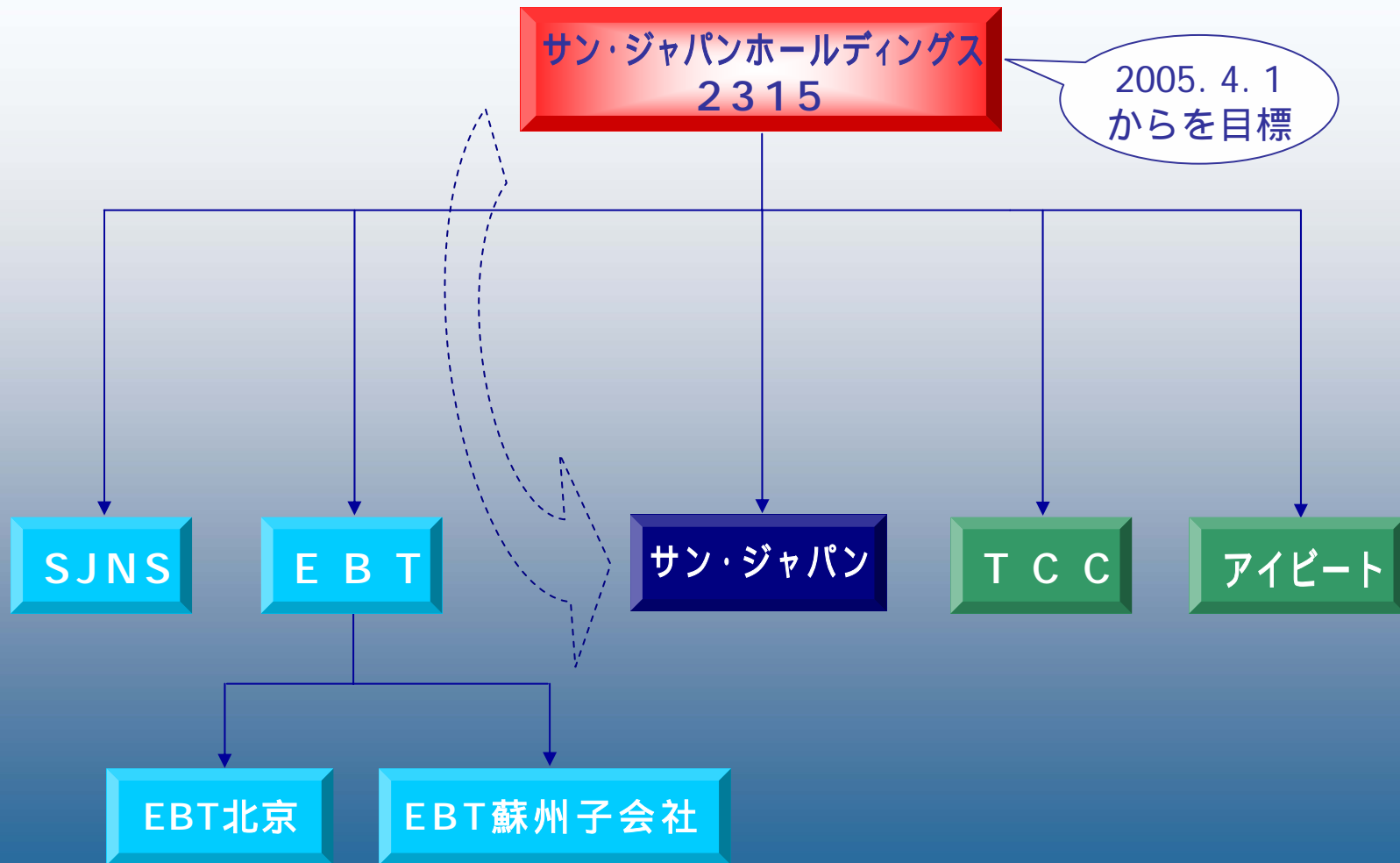
6 . S J グループ戦略 (2008年までの展望)



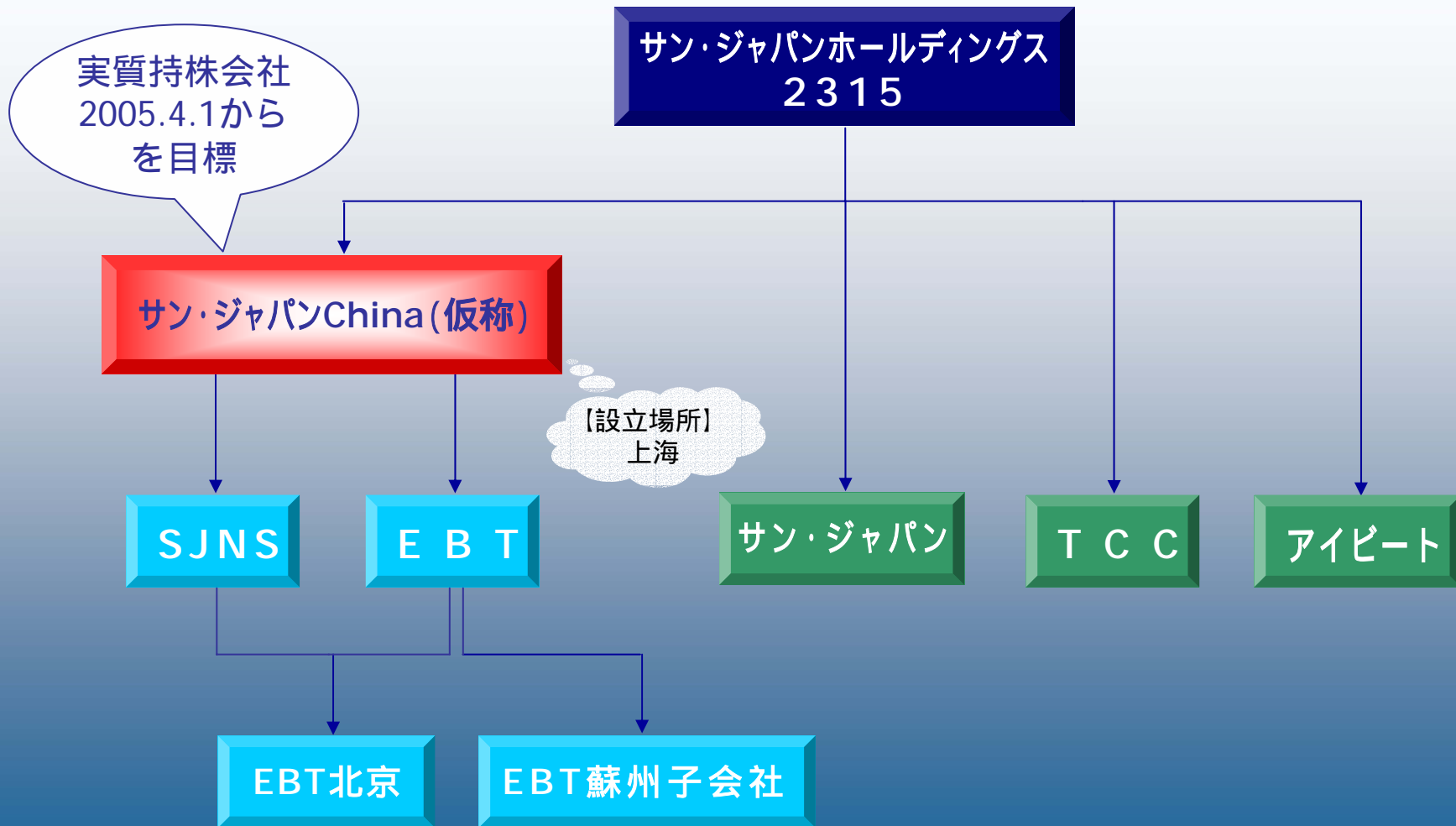
1. 現状



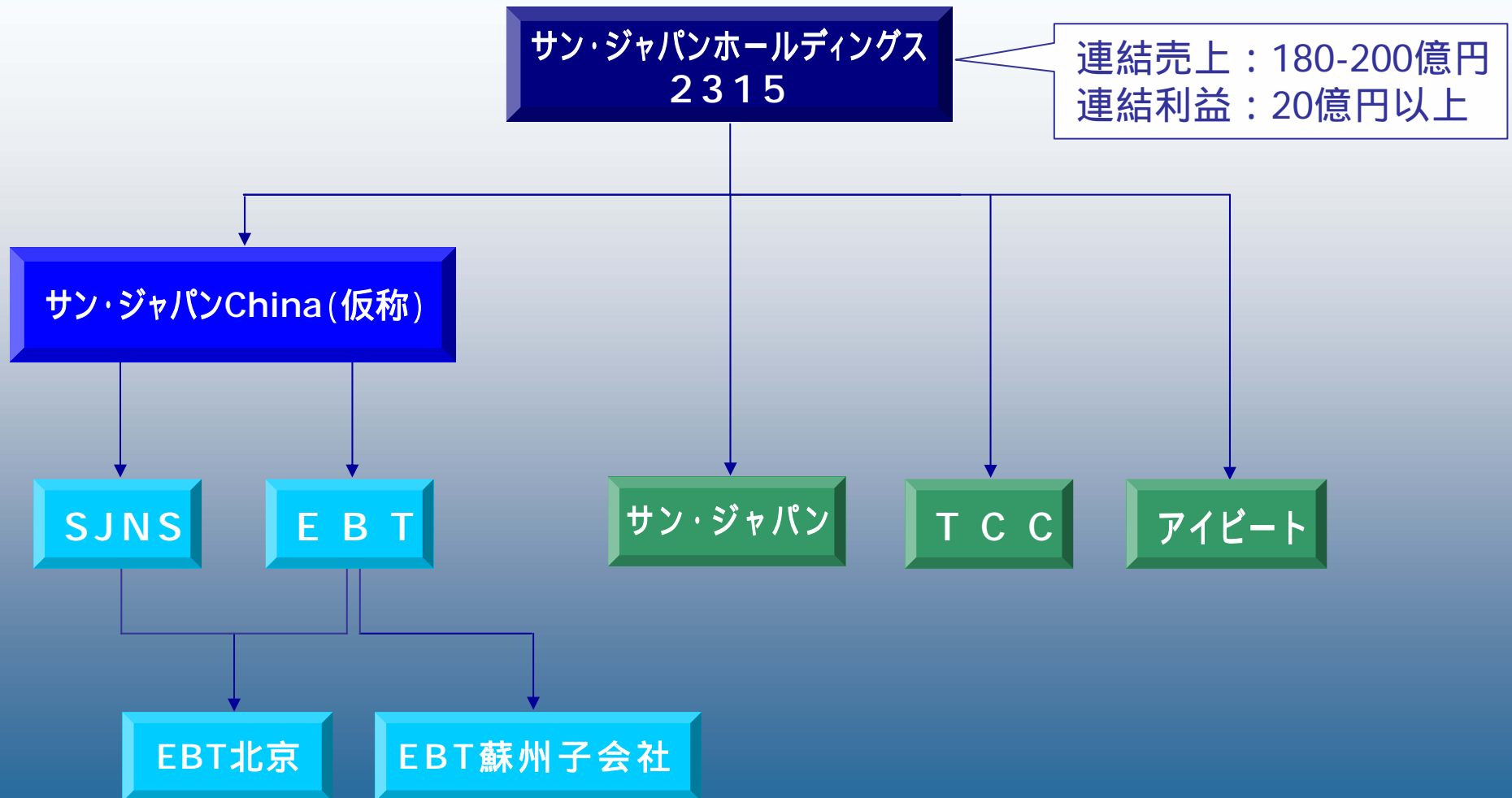
2. 持株会社の設立



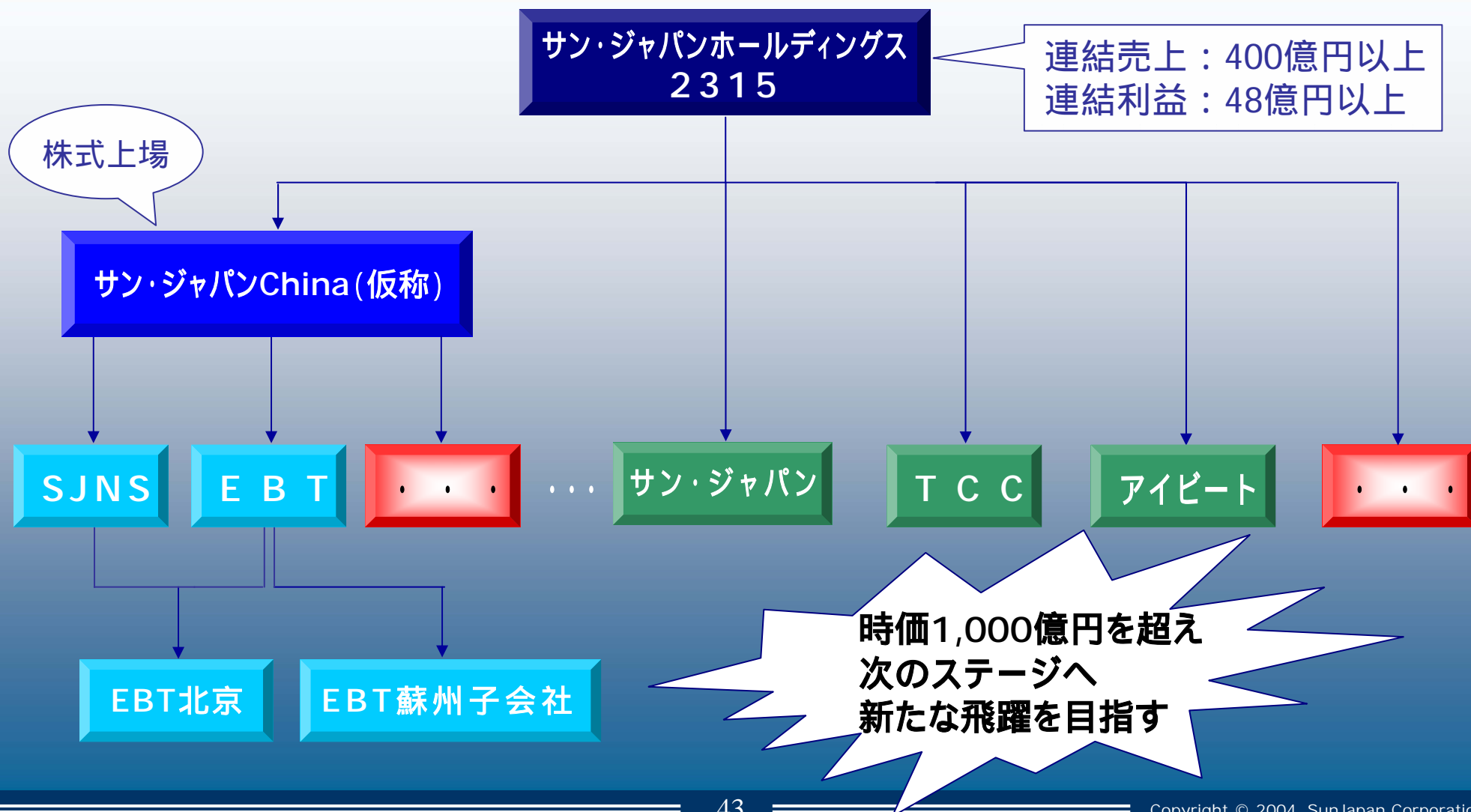
3 . 中国実質持株会社設立と統合



4 . 2006年3月期の目標



5 . 2008年度（北京オリンピック開催年）



7 . 2004年度の業績見通し




平成17年3月期（連結）の業績予想修正について



【修正結果】

平成17年3月期(平成16年4月1日～平成17年3月31日)連結の業績予想

単位:百万円

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想 (平成16年5月13日発表)	10,500	1,170	1,480
今回修正 (平成16年11月15日発表)	10,500	1,073	678
増減額	-	 97	 2,158
増減率(%)	-	 8.3	-

- 業績修正は「連結のみ」であり、単体の業績予想には変更はありません。
- 連結調整勘定を期間均等償却する際、当該額は販管費及び一般管理費として扱われるため、経常利益は計画を下回りますが、当期利益については計画を上回ることとなります。
- 上記予想につきましては、本資料発生日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後、様々な業績によって予想数値と異なる可能性があります。

【修正理由】

株式会社ティー・シー・シーとの株式交換（10月9日実施）により発生する連結調整勘定（「のれん代」）の償却方針と計上額の確定

その他の前提については、当初予想との変更無し

償却方針の確定

株式会社ティー・シー・シーの収益安定性等、再度精緻に検討した結果

⇒ 「一括償却」から「5年間の均等償却」へ変更し確定

計上額の確定

公表日直近の株価動向に異常な高騰が含まれていると判断

⇒ 算出の基礎として「株式交換により交付される当社の新株式数」に乗じる株価を

「株式交換公表日以前一定期間の加重平均」をベースに算出したものを採用し確定

単位：百万円

	通 期	
	数 値	前 期 比
売 上 高	6,205	121.1%
営 業 利 益	848	116.7%
経 常 利 益	818	116.0%
当 期 純 利 益	466	113.2%

5月13日、決算短信発表時の数値より変更はありません

単位：百万円

	通 期	
	数 値	前 期 比
売 上 高	10,500	166.9%
営 業 利 益	1,103	133.7%
経 常 利 益	1,073	131.3%
当 期 純 利 益	678	141.3%

本資料の記載事項は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。今後の業績につきましては、様々な要因によって予想数値と異なる可能性がありますので、あらかじめご承知おきください。